

鳩谷三春公司
勸業
美濃
上

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

知非齋高田先生筆記
鈴 木頂行大又所説



鳩谷三志公羽勸善録

2767

東都

文生堂
耕文堂 全梓

年時の志願の事一々ありて
あひてよありていけしむるを
たすむるの忠告と見ゆる教を
世人を善くせしむるを
善くせしむるをいひて
あひてよありていけしむるを

東洋の海久しとて一
字の味也一筆の
とてとてとてとてとて
勢久しとて東西
一國のたてとて
此久新也久しとて
とてとてとてとて

吾子一賀子志松初則其為政
とてとてとてとてとて
廣のたてとてとて
國のたてとてとて
とてとてとてとて
年とてとてとてとて

あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに

あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに
あまのしづみはついでに

やい美しき年い神さくはけあ次
 り子まの侍さやあからくはあはよ
 なるこの忠存貞信のあらわう
 賀かああはあはあはあはあは
 ともあはあはあはあはあはあは
 せーのあはあはあはあはあはあは

道子あはあはあはあはあはあは
 ともあはあはあはあはあはあは
 知則者政母あはあはあはあは
 ともあはあはあはあはあはあは
 御心をまはれんあはあはあはあは
 美しき年い神さくはけあ次

一 米之の心算をねの流の車か
 かなんてきんをなむいぬきおるは
 成さぬか子ぬこゆいよ
 けい月のましとて探問舎の
 安しこる田んぼしる也

勸善録卷之上

目録

一 常陸国土浦頰粕毛村の名を儀大塔の父子廉直
 篤行の事

二 同族下るは村れを大塔の小児おまたつとて忠孝
 けりをも教諭する事

三 同村れ文次まぬ并子れ安を辨が事

四 同族より岡村の忠大塔のまぬが苦心并同不れ苦男
 女の事

五 同村根の平右衛門が婿教系七が事

六 同国四戸辺村の三子左衛門が孝心あり

七 同国空間村れもん女が事

八 同国下志津村の名守半七が事

九 同国筑波郡大形村れん左衛門が事

十 同国水戸川田伏村のこん女が事

十一 同国水戸南川田本神谷村れん左衛門が事

十二 同国水戸川原井村れん左衛門が事

支ぬが事

十三 同国下館川下志津村れん左衛門が事

れり

十四 同国新谷村れん左衛門が事

十五 同国網下村の後家ふみが事

十六 同国新が崎れん左衛門が事

忠義義雇女の松ちどが事

勸善録卷之上

東都

知非齋源與清文儒著

門人

赤松知則

岡常政 校

① 名陸国去浦領招毛村の名る倭左衛門ハ廉直れ善人
いさらのくにさうりやうしやう
 かり。老よ関意けんいかり年貢ねんぐをならんことをとらんと
 せしにゆり地政ぢせいより手貢ていこう皆減れ差納さうなうを給たまはると何
 またびかりその治跡ちせきを自己おのれの費用つひようとせび農耕のうかう
 け具ぐとともひのて。村内むらうちれ百姓ひやくしやうよりかたはり何れハ国君こくにぎみ
 のかへりけちをたよと示しけり。まへ農のうりておくれ

て年貢米調かね一者よハ初をひり儀をほくりてカ
 とそそ^〇不^〇足^〇れ^〇志^〇ほ^〇れ^〇バ^〇巴^〇が^〇米^〇と^〇足^〇一^〇な^〇ざ^〇
 て納めさせけり。又荒廢れ田をハ国に費せりて
 志^〇他^〇業^〇と^〇ほ^〇と^〇て^〇一^〇所^〇貯^〇の^〇水^〇田^〇と^〇ひ^〇け^〇り。又^〇桑^〇食^〇
 と^〇く^〇し^〇弊^〇衣^〇と^〇恙^〇茅^〇屋^〇よ^〇居^〇る^〇ハ^〇民^〇家^〇れ^〇志^〇の^〇た^〇ざ^〇
 りとせけり。も鴉れ心をく。兼ハ子に即一節ハ寅よ
 起て勤けり。又年貢の檢見形ハ素心画一かつさるよ
 里起れり。檢見形ハ比とも縁支れぬ。やのまにさる
 國恩と教有ることありとて。人とも教諭一
 ければ。今ハ村民ことくく見まぬ。びけり。かゝる廉直

れ人ければ。その教よ。や子れ志を傳も。また廉直れ。長
 人にて。幼より父母れ命とそむた。一となく。父が
 初よ。學て。よく農するに力をを。一けり。村内れ。及。精
 とほ。くろひ。修むる。ことと。何と。て。毎。降。れ。ば。其。の。たま
 里水とそ。くろ流一。雪ふれば。か。た。拂。ひ。て。好。海。人
 れ。ま。づ。し。ひ。な。か。し。む。父。れ。俄。た。ま。つ。も。大。に。喜。び。て。ま。た
 ひと。お。り。也。文。政。二。年。三。月。十。六。日。より。後。乃。橋。と。つ。く。ろ。ひ
 と。さ。む。し。の。ま。ご。め。た。び。と。い。へ。り。

同次下。了。津。村。の。庄。左。衛。門。ハ。は。と。て。家。業。と。い。と。す。み。
 孝。義。れ。ハ。源。か。り。け。り。も。智。れ。師。と。て。小。児。お。も。た。つ。と。く

忠孝の事も教さすけり。今ハ菊松百善丹次久吉。不
 吉。飛松。飛吉。佐舟吉。後舟吉。直吉。舟吉。舟吉。舟吉。
 めり。て。り。子。み。ち。子。ち。と。と。は。め。と。と。て。十五。歳。以下
 此。男。女。児。れ。孝。行。志。い。と。お。お。かり。と。と。

同村の文次といへるハ。着いづれれお系にて。解。葉。子。葉
 と。世。り。かり。種。と。けり。その。心。と。ま。ま。り。て。老。人
 代。捨。べ。く。や。一。も。れ。葉。の。葉。荒。遊。ち。と。と。信。行。行。置。て。
 得。来。れ。人。馬。意。あ。ぬ。れ。ま。ら。ら。に。何。れ。種。けり。後
 に。い。く。る。の。う。い。付。て。古。い。な。か。れ。は。新。い。葉。の。葉
 何。れ。も。文。次。子。能。て。る。具。な。れ。何。人。を。と。と。く。い。は。る。の。

お。お。かり。けり。は。文。次。が。子。に。あ。を。系。と。と。ま。ら。か。よ。十。五。の
 葉。何。り。父。母。心。教。の。旨。何。り。て。日。中。以。お。新。食。れ。何。と。は
 と。め。け。る。と。み。て。い。や。や。父。母。ハ。日。夜。家。業。に。か。い。れ。た。と。と
 何。れ。に。て。半。日。時。食。ま。た。ま。と。と。た。り。よ。か。と。と。我。ハ。も
 何。れ。一。事。と。と。し。も。何。れ。ハ。障。に。も。ぬ。べ。か。ら。び。と。り
 父。母。に。か。ま。り。ま。あ。て。て。時。食。の。何。と。と。い。へ。と。と。何
 けれ。ば。父。母。も。と。ら。い。葉。の。葉。を。何。い。せ。と。と。許。し。て。代
 ら。し。め。けり。と。と。

同族。了。岡。村。れ。忠。右。衛。門。支。ぬ。ハ。い。と。善。心。れ。志。ど。も。かり。
 何。れ。後。何。れ。に。て。何。れ。に。夜。會。と。め。と。と。い。と。何。と。と。何。と。と。

家業怠らばいそいそみければ定しくもあつて孤三
 人にくひまはけり。そのをばばも村に奉たり。男のり。志はる
 へ。父流ちり。かどい。かた。替ま。や。潮。多。く。ちり。あ。れ
 ぬ。祖。父。れ。代。り。の。借。銀。つ。り。て。その。家。も。保。が。し。けれ。ば。
 兩。孫。に。つ。り。て。陸。奥。國。へ。替。も。む。か。ん。と。い。て。さ。う。て。お。れ。ま。お。儀。て。
 娘。れ。お。第。一。ち。り。け。り。と。さ。津。れ。奉。限。ま。て。合。式。あ。り。と。
 孫。の。と。だ。ご。や。れ。願。盛。女。に。奉。と。か。く。し。て。借。銀。ど。り。返。し。海
 一。け。り。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。が。居。別。ん。だ。め。よ。と。て。志。げ
 が。り。と。祖。母。と。つ。け。お。ま。し。け。り。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。祖。母。が。よ。げ
 の。や。か。し。と。い。や。ぶ。み。て。さ。う。の。お。も。く。り。び。お。り。よ。め。ん。が。し。孫

も。せ。や。祖。母。に。が。り。ほ。か。な。み。け。れ。ば。祖。母。も。あ。り。と。な。れ。が
 たく。て。十。五。ら。ぬ。が。や。ぶ。と。れ。ご。奉。に。と。ま。り。ぬ。と。さ。う。て。わ。り。と
 に。父。某。の。陸。奥。へ。替。も。む。か。ん。と。様。さ。う。ち。り。ひ。し。て。出。さ。け。り
 が。せ。り。と。さ。う。て。目。に。お。も。い。な。い。の。を。も。い。ん。老。た。る。母。に。ま。か
 れ。と。告。ん。と。か。れ。と。た。ら。ぬ。お。れ。替。も。て。よ。り。い。れ。た。ま。よ。
 と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な。い。の。を。か。ち。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な
 かり。た。ら。ぬ。お。れ。ま。の。お。も。い。な。い。の。を。か。ち。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な
 け。り。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な。い。の。を。か。ち。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な
 と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な。い。の。を。か。ち。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な
 祖。母。の。お。も。い。な。い。の。を。か。ち。と。さ。う。て。お。れ。ま。の。お。も。い。な

と見て遊んでのほりの。そこの居方の世だ。これありて
 まよとみてよとほさういかなし。父もふつてつらさを
 出しかども、まよも、おたつめ、つらさ、まよに思を
 くらめけ。さなされちる。いかなるおのめ、ぐみにやけ
 う。右在湯うまぬびで、たのめ、つらさ、おたれ。
 も、縁志が。とて、お具、救を、たよ、まよ、おたれ、
 ね、合と、調て、彼が、急難を、救りんとひ、くきり。
 ちが、ねて、送、つ、合、お、人、れ、め、ま、か、
 幸、れ、と、き、て、送、き、を、出、て、か、れ、始、の、父、を、返、し、め。
 始、も、お、り、と、て、父、子、が、救、を、救、け、り、け、忠、在、湯、が、お、

心にあて。同村、れ、久、た、湯、う。を、お、お。金、次、左、助、志、お、お、お。新、年、
 年、ま、湯、お、お、お。お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 ね、女、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 と、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

同村、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 け、り、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 つ、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

てかり。すれはるる時より割れ下の葎をと毎月三日は
節は掃除はととつとて。おちやけは控の首をさやり
つゝみけりととんか。若人がれが。又若人は敏系七
とは毎にとりたるるべし。

●同族田戸辺村は三神若湯として。年七十一は老まく
有り。それ母は齡八十ぬれぬいまひて。居たがくて
て大小便は二本とけが一たどはることはあまたらびちりのこ
神若湯の子に孫はおちやくもたりければ。祖母れお抱せん
ともやだつとと。もが母れお抱ひ我はべとて敢てしらん
び。おちやくにそいて考れらるとおきりけり。お母はいら

た時よりそれの函くておちやくもすかれることをお
もしりければ。くいもむらかたらさしましといひなさう。
さらにおちやく母におつかして。年七十一はれに及ぶもも。
とれとちとり。

●同族岩間村よりんとり女何り。見れたお次まれお次。
とりに放籠れまして。おちやくとおちやくを忘りけらることはいらなかげた。
毎日あまと浴し。おちやくとおちやくを浴し。おちやくとおちやくを浴し。
ろの満ちの日より。戒いからも見まれ心をおちやくとおちやくを浴し。
てやららんとおちやくとおちやくを浴し。
一くかくしらんとおちやくとおちやくを浴し。
一くかくしらんとおちやくとおちやくを浴し。
一くかくしらんとおちやくとおちやくを浴し。

より其諫言を志たがひ遂に其旨を遂げしに善志にハかりぬと
いへり。

●同族下るは村れ名をませよりのなり。徳心なく
して者よ国恩をむくらまらんことをねがひしを
懐れ小岩田村に言ふ余れ義慶田なりて。人々を
にふをまけしけれど一井ぬりしと。半七歎心とす
いびし。文化ありしより文政二年まで。十二年に
墾しられた。遂に九十九名八株余れ良田とせり。
まゝ永固村にて百餘年義慶の田サハふ計とす
たぬ。又村ゆする余れ早田なりしに。そにちりぬ

此井もちりて。あの先んことを天神に祈ること又二年。
文政二年八月。天神神よりや。たのむいけん。水ゆられ湧て
用水よりかびたりぬ。を此半七が妻れ。其業より地味
ことと一けり。この米穀を粉よつひや。石原しとす
て。さらばその報にせんとして。大岩田村にて七十年余の
義慶田を墾して。それ料に完しとせん。

●同国流は形村の森右衛門。初少きよ。孝貞れ及
と教ふも。勉として。四葉より十子。其まじれ。其まじ
十余人のりて。一月よ六々。つと。其徐けりとせん。

●同国水戸。从田伏村れ。大徳屋ごん女。とやく。又母よお

くれえれとくみましひとをりぬ。父母会併志なりを
て毎夜父れだるる画。母れだるる画念佛せたるに。
また兄の恩にむくいんがしめとて。おんれ後。必と礼に
といへり。

同園水戸南原田本村に侍る湯とりのり。妻
とちの女とつ八十六歳に老母につかして。孝まをつく
しけり。或人まぬれものが田植の時。一に。妻ハ母を厚い。
まハ苗と芝草など。おひりた。古れ唐笠に紙とを陸
て日設れ具と。その下に母を居ら。茶烟草など。は
はりてたぐとちけり。母も農業を好ければ。まぬれまの田

うへるまをみて。いと楽く喜びけり。かくも母を
れんと。或人祀て。親と死に。厚けたるをたけど
田畑よ負けるま。はげば。けき勝が。ま。い。母を。あまわり
は。ま。の。ち。り。と。い。ひ。も。ま。の。女。み。て。老。人。の。ま。り
ま。を。懐。い。い。う。ま。の。わ。か。れ。と。も。放。蕩。ま。の。城。に。い
と。れ。か。し。一。人。れ。ま。母。を。れ。ハ。心。傳。に。あ。ま。り。願。め。ん。と
お。と。と。終。ふ。ま。か。せ。は。ん。と。い。へ。り。よ。祀。れ。る。人。も。款
と。ま。り。と。因。け。り。と。ま。ん。

同水戸原者井村れと。三弟が。お。家。れ。身。に。信。お。神。と。い
ま。り。妻。と。は。福。と。い。へ。り。それ。父。十。八。歳。の。母。と。ま。か。れ

て離れいね女母に孝奉とておきておとせし後ハ母申
 病と致し半死に陥りておとせし不自中よりけれと
 何くれと介抱し様しおたなどともほし清めて人目に
 かいらぬやうに心を用ひり見れとて神その神とて又
 やう母の事おと介抱しるごうに小児三人れおの言ま
 でハカ及まずけれ母とて我家にてまゐるせんといひ
 けるよ。福まぬれ志敬てうけひかぢ母と見れ家にまゐり
 ことおとせしとて孫志とておとせしけり母も又娘が孝
 まれとて神が深志とておとせしかくてあり預ればこそ彼
 おもふとていひけれせとておとせしとていひせん

おとせし打泣けりおとせしとてハ申しにふとておとせし
 にとておとせしおとせしに介抱しおとせしとておとせし
 おとせし母の心におとせしとておとせしとていひせん

●同國下宿下下る田村に孝奉つとて男あり。おとせしは
 に碎れて母や妻とめのいひにとておとせしとていひせん
 娘とておとせしとていひて。おとせしおとせしおとせし
 ちがれて。ひそかよ男とて清めて人目を見せしめたり
 毎夜百千夜日月をおとせしおとせしとていひせん
 十二月十八日よ。孝が力をおとせしとて織出たる本孫二を
 孝奉つをいひ町よおとせしとておとせしとていひせん

れいほととと。一本心みだれて本徳代れ令辨をあらん
 際。一々ある母これを悪て進出さんとする。とよしたく
 けがた悪て自己れ衣二とよにあらせ。これを悪て
 本徳代れ令と祖母根よきりたまへといひひる。と祖母
 笑つて。や正月も付たらに。それ衣敷をく。何と
 う悪て衣とよ。とよ。正月はかりあさ
 弁へある。こと。母はれ。かた。このりあて。業せん。は。
 衣敷をく。とよ。け。代れ令とよ。父
 此は。や。と。件。た。ひ。ひ。ひ。祖母もる
 の心よ。と。遂。父。と。件。ひ。ひ。ひ。それ。後。と。お。の。り。

毎夜五十遍れれねとつとむれと父の酒癖を止こと
 ち。と。廿一日れ。合。一。拍。教。を。と。と。お。ひ。定。て
 二日。三。日。れ。と。い。か。く。と。お。せ。び。は。これ。は。縁。ら。り。と。と
 一。が。や。日。教。を。ひ。り。ま。た。お。く。い。お。と。い。か。と。家。内。の
 主。は。び。一。か。し。か。く。と。よ。と。い。う。一。つ。ひ。れ。バ。祖。母
 父母ともたやねとらた。い。ま。じ。初。め。れ。母。は。て。と。七。日。の。合。令
 せ。ハ。お。と。と。そ。こ。た。の。ん。と。疑。行。一。さ。ら。ハ。は。よ。か。と。り。て。家。内。れ。意
 各一七日れ。合。令。へ。一。と。と。信。心。を。起。一。これ。より。後。ハ。父。も
 酒。と。禁。ふ。て。家。内。一。と。と。一。と。勝。ま。一。一。と。候。け。り。と。存。ん。

同从彩谷村れを右邊つが始くらハ。十。五。年。に。て。人。れ。家。の

婢とちりてつかへけり。それころ母懐妊せしとてんてを幸
 け産ハ大なるちりとこそ産みけとて安産をうんことを祈
 仏よいけりこふ。又産むまじければ産見れ襦袢はよきまじ
 とおひひて。ま家より届られる古たさいでなごなつめて。ふ
 見れ衣二ぬい出けり。かく一つ母れ毒を危くはみおのよ
 とりり。ほるおれ着ま。母毒してやがてそれるまさま
 ひくとつてさめぬ。およも家に味をこひて。おまかりて
 へるに。いまわごと毒をよれそみて苦くむまじりあごころ
 手洗ひにけり。だて邪仏を祈して。やがて安産しけれど。
 何ひとり恙はへたおもや。くかぬて用をこしやう

小衣二を出して。小児を纏ひせけり。母あつせしめのゆ
 候と候してお嘆しけりとなん。



● 同国筑波山に林麓の洞下村にあり。後家あり。尚

四十三年にけおたる母と初産子とをばくそみて。
 いとちかしくて候けり。或時を母目れ病を起て盲目
 にちりぬ。小女を産む時にとた山よりて。産葉枯枝を
 どりりまて。己ハ糸探やが。火たきて母を候た
 しめ。おれ衣もいと着けれど。とりかさぬべたは
 ちゆれば。母れ其のひえたるまじり。しが肌にてあたる
 め。ちて早衣や。ほど纏ていたるけり。また母れに

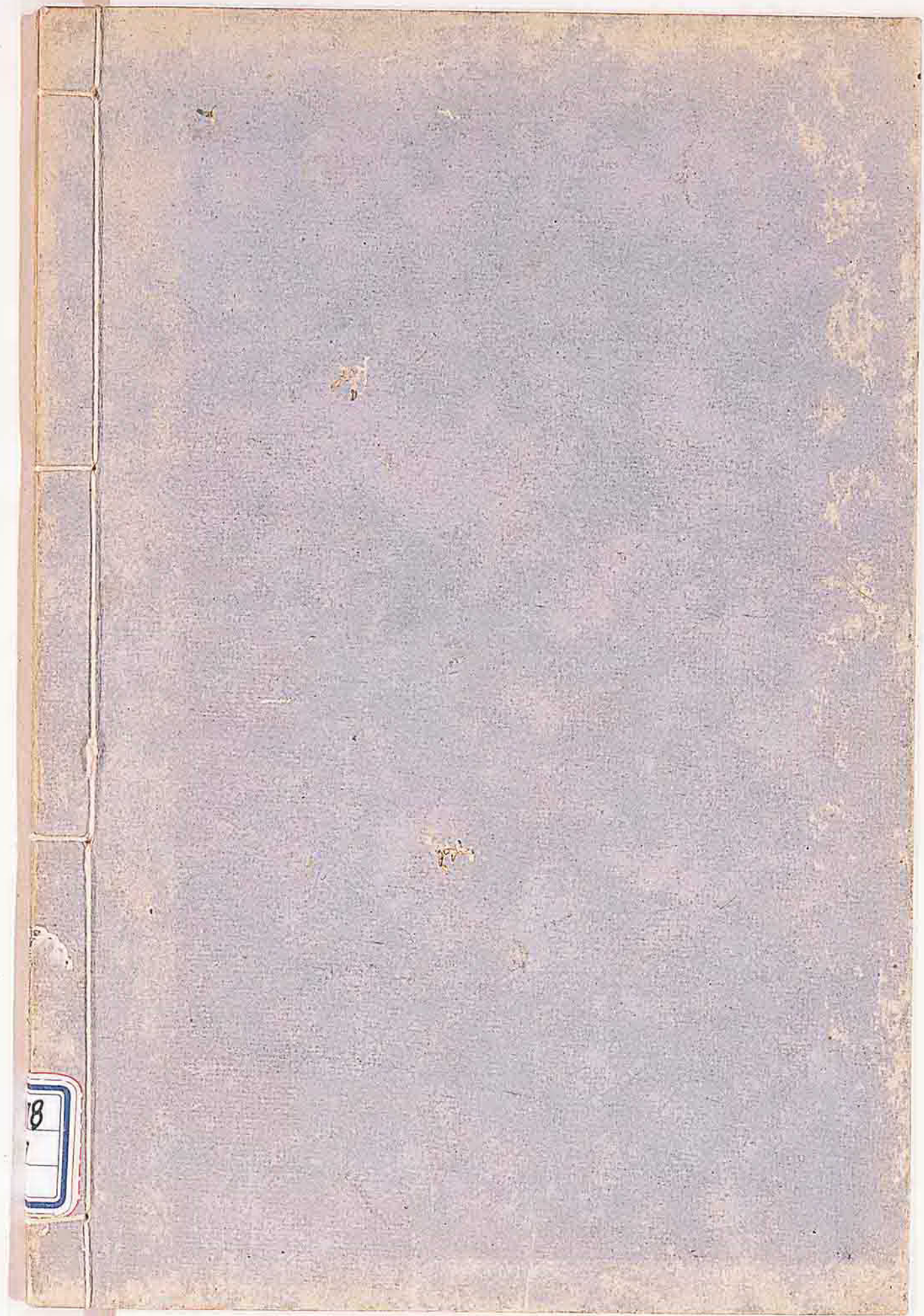
通べり合物をしきめんといれど、ふたりはかたけに叶が
 ければ、日雇かせたり。それ、男、親をばて、だるとおく
 ども、盲目れ母をれば、離れ、舟んといと、心りかて、
 所、紡績れ、まじり、せ、れ、かせ、だ、れ、み、に、て、
 月、は、ぐ、み、
 けり、と、あ、ん。

●同国、新、が、崎、子、校、種、治、弟、八、と、り、ふ、番、人、何、う、父、母、を、
 去、て、後、ほ、え、れ、伯、父、に、よ、く、つ、か、く、下、人、を、ほ、さ、れ、み、人、は、伝、
 義、を、お、り、一、か、ぶ、り、も、人、れ、う、い、と、な、り、と、や、一、と、な、り、妻、
 も、貞、女、に、て、ま、と、り、も、れ、伯、父、よ、く、つ、か、く、嫁、ま、り、の、心、
 十、の、事、が、な、り、と、一、な、り、も、伯、父、ま、れ、心、よ、る、む、け、る、こ、と、な、り、祝、

族、に、よ、く、ま、り、つ、り、下、女、下、男、と、何、さ、れ、み、紡、績、れ、ま、り、お、
 ち、び、し、て、お、を、と、治、り、同、と、親、お、ま、れ、ね、ま、り、その、お、れ、も、
 代、忠、ま、清、と、い、の、の、忠、心、せ、二、に、て、志、年、に、及、べ、る、妻、あ、と、
 り、び、か、く、て、後、遂、に、賽、れ、何、系、の、隠、舟、着、と、な、り、ん、も、お、
 こ、と、ち、か、る、べ、り、と、て、舞、ま、り、子、の、縁、を、い、い、ひ、し、む、る、も、ん、あ、
 れ、ど、う、け、ひ、び、し、て、ら、も、お、れ、お、り、心、を、お、り、け、り、と、
 儀、よ、い、と、笑、し、た、の、の、子、う、み、け、る、が、お、れ、ま、ん、御、を、け、れ、バ、
 ず、び、かん、こ、も、は、かり、か、り、し、と、て、志、を、清、巴、が、三、梳、と、
 一、梳、に、減、り、二、梳、を、積、て、お、り、お、に、め、ぐ、み、それ、災、を、
 長、い、せ、け、り、ま、り、後、弟、八、が、雇、女、子、校、と、つ、り、り、母、れ、持、持、

とうく者病一孝妻とをありけり。父ハ何系代何者
 とふ所に候けるが借銀返ぬ。術あり病後ながくも
 戸に出つつかへせんといけるを。扱つくかちみどめ。
 一七日断食れ初をもつとめて拵致し。さむぐにんを
 ぐしして。父が借銀をつくれいかへけり。それ後父中風
 ぼてりつひしと。ふちがく者病して。孝志とあり
 けり。そのおけ終が崎よりに。され次右衛門。仁平次。
 依布。もう女。たね女。たよ女。平之助。付八。越七。まぬ。たよ女
 人。おんかりとせん。

勸善錄卷之上終



8

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

勤學錄

才





2768

勸善録卷之中

目錄

- 一 常陸国土佐郡那新井村に民を助ぐ事
- 二 同郡塘新村に民を助ぐ事
- 三 同郡麻嶋郡常陸原村の孫を助ぐ事
- 四 同郡忠孝村に民を助ぐ事
- 五 同郡の湯屋を助ぐ事
- 六 同郡羽崎村に民を助ぐ事
- 七 同郡坂田の里に民を助ぐ事
- 八 下総国おろ郡岡村に民を助ぐ事

後三島三左衛門などか若業子か若心れ男の

① 同国豊田郡吉神村の定三郎が事

② 同国後嶋郡恩名村の平兵衛が事

③ 同国岡田郡桶戸村の三又三郎廉直が事

④ 同国神子伊貝根の長吉が事

⑤ 同国版沼のきよ女が事

⑥ 同国今高の儀太郎が娘いねが事

⑦ 同国目出高町次三郎が娘里見女并婿に助が事

⑧ 同国山田屋万吉か志母の事

⑨ 同国荒井家四郎次郎が子次三郎が事

⑩ 同国今高の仙臺屋七三郎が妻もちろが事

⑪ 同国小浜村のよみ三郎が事

⑫ 同国古河城下長名屋小三郎が子次郎を

が事

⑬ 同国の梶高人の長孫次郎が事

⑭ 同国小浜村小三郎が二人の娘達申に

とも或男はひねり

⑮ 同国の足利屋孝三郎が婢もちろが事

⑯ 同国和泉屋忠右衛門が下男下女が事

⑰ 同国の又三郎が後妻若心れが事

● 同所の日村を法を傳へ給ふ事

● 同所小西屋平右衛門が妻并始末にける

● 甲州五国法坂峠に蘇るれ本村の中村を法を傳へ給ふ事

● 同所永井村の善を傳へ給ふ事

● 駿河国沼津に宿の孝貞に男女兄弟并芥沢子種
善を傳へ給ふ事

● 下弦国程多郡特宿村に法を傳へ給ふ事

● 同国香取郡并多郡に法を傳へ給ふ事

● 同郡西代村に法を傳へ給ふ事

法助孫助入利平次長七を法を傳へ給ふ事

● 同村に善男女事

● 同郡并多郡に法を傳へ給ふ事

● 同郡押砂村に七帝を傳へ給ふ事

● 同村のりよ女にける

● 同村に法を傳へ給ふ事

● 同郡依原の里に久保を法を傳へ給ふ事

勸善録卷之中

東都

知非齋源與清文儒著

門人

赤松知則

岡常政 校

一 乃陸国^{まぐ}之^{まぐ}強^{まぐ}勢^{まぐ}利^{まぐ}井^{まぐ}村^{まぐ}れ^{まぐ}者^{まぐ}が^{まぐ}子^{まぐ}民^{まぐ}之^{まぐ}助^{まぐ}ハ^{まぐ}十九^{まぐ}歳^{まぐ}
 け^{まぐ}者^{まぐ}之^{まぐ}家^{まぐ}賣^{まぐ}一^{まぐ}け^{まぐ}れ^{まぐ}ハ^{まぐ}人^{まぐ}の^{まぐ}奴^{まぐ}と^{まぐ}な^{まぐ}り^{まぐ}て^{まぐ}父^{まぐ}も^{まぐ}子^{まぐ}
 も^{まぐ}こ^{まぐ}や^{まぐ}こ^{まぐ}よ^{まぐ}つ^{まぐ}か^{まぐ}へ^{まぐ}け^{まぐ}り^{まぐ}。民^{まぐ}之^{まぐ}助^{まぐ}お^{まぐ}り^{まぐ}や^{まぐ}う^{まぐ}。父^{まぐ}ハ^{まぐ}年^{まぐ}老^{まぐ}
 だ^{まぐ}れ^{まぐ}バ^{まぐ}ら^{まぐ}家^{まぐ}に^{まぐ}て^{まぐ}も^{まぐ}何^{まぐ}く^{まぐ}れ^{まぐ}に^{まぐ}つ^{まぐ}け^{まぐ}て^{まぐ}不^{まぐ}足^{まぐ}子^{まぐ}お^{まぐ}ひ^{まぐ}持^{まぐ}し^{まぐ}
 べ^{まぐ}。我^{まぐ}カ^{まぐ}を^{まぐ}添^{まぐ}ま^{まぐ}ぬ^{まぐ}せ^{まぐ}ん^{まぐ}と^{まぐ}て^{まぐ}己^{まぐ}ガ^{まぐ}る^{まぐ}家^{まぐ}れ^{まぐ}物^{まぐ}と^{まぐ}と^{まぐ}
 け^{まぐ}こ^{まぐ}ち^{まぐ}が^{まぐ}救^{まぐ}も^{まぐ}よ^{まぐ}く^{まぐ}寐^{まぐ}び^{まぐ}聊^{まぐ}の^{まぐ}い^{まぐ}と^{まぐ}ま^{まぐ}に^{まぐ}繩^{まぐ}を^{まぐ}ち^{まぐ}ひ^{まぐ}

勸善録

行て。父れを家よれくりけり。又父が厚恩とさうけたり。
 孫市といふが。家善徳一けり。さうりも保れいとも。まゝ繩
 かひれくりていふや。人よつかり。多かふよまかせね。か
 とさうくまゝぬ。せんともかたひび。この繩をだす志と
 見たまひてよ。といひけるよ。孫市もそれ志は感一。
 にその繩を示して。これ民の助が深切れたまひの。ちりと
 て。養育りともせん。

② 同郡坂倉村れ。熱き湯が子若孫に。孝心よかた志に
 て。ゆく者一かり。一中にも。孝履も。うづと。どつく
 里。それ代をゆて。父が。お抱れ。ほよ。ひ。め。けり。かく心
 つくせ。一被にや。今い。走。一。た。こ。な。く。て。その。子。孫。よ。い。つ
 る。ま。で。み。を。孝。け。れ。家。を。り。と。ぞ。

③ 同国麻嶋郡。若原村の孫。友。末。つ。ぐ。子。若。者。ハ。十三。歳
 れ。母。よ。い。ほ。妊。て。一。よ。と。せ。父。母。よ。い。や。う。胎。教。と。て
 胎。内。より。教。れ。バ。良。子。せ。し。こ。そ。取。さ。う。い。は。な。ハ
 某。も。心。を。改。て。孝。善。を。一。ま。ゐ。い。べ。一。父。母。も。若
 子。を。つ。と。め。て。良。児。を。の。だ。ま。し。て。よ。と。り。入。し。父。母。も。理
 に。伏。し。て。涙。を。流。し。これ。より。行。を。正。し。善。し。を。と。ふ。と
 一。けり。若。者。も。日。叡。力。を。お。し。て。何。れ。と。つ。か。い。けり。と
 せん。

⑤ 同不忠き傍が娘もやの輩日づかよ十三歳やれど。父母子孝をとおく。新夕れ飲合のいともも母に手とおろさむせびし。何くれよんを引ひけん。又もふれるおよハ。及強の香かたもひて。人馬れ付まともやくせむせけりとなん。

⑥ 同不富田屋町は湯屋善徳といふもの有り。世賃律満のをもれこなり。一が孝志し。係かりけり。母眼病を治して医療れ術もおたつり。一と。善徳三十七日。合し。神仏も祈り。遂よ利益と。つら。母の眼癒けりとなん。

⑦ 同郡羽村の善四郎が妻か孫。老母腰おてけり。ちし。さるをもよく介抱し。て。孝志し。と。お。けり。母さる。病人たれど。いと。屈し。た。と。り。ハ。お。山。ち。ど。よ。か。ね。負ひて。願めけり。ま。束。縛。て。目。覚。し。た。人。を。つ。け。ん。が。た。め。よ。毎。夜。丑。ろ。ご。ろ。ま。で。ハ。必。火。桶。で。起。床。せ。る。よ。い。へ。り。そ。れ。男。い。し。く。孝。志。を。感。ず。村。長。れ。網。代。平。徳。に。か。た。り。け。れ。ば。平。徳。も。大。に。感。ず。て。や。が。て。地。政。よ。ま。さ。し。て。賞。物。賜。り。せ。よ。く。め。ぐ。み。何。と。れ。み。け。り。となん。

⑧ 同郡飯沼の里れ徳屋源善が妻せよハ。やく母に

おくれ。父よえぐまれてひととなりかど。いと柔和の
 性質にて。孝志深かりけり。嫁人何りて。富家の嫁。おれ
 もいりや。と。敢てうけひがば。だ。父よ孝志せん。と
 どのもねがへり。さるやどま。いと多き家。深志がり。と
 へ嫁ひる人何りせよ。深志が忠し。たふ。な。い。い。父
 知て。多き家。と。い。と。さ。び。妻。と。な。り。貞。志。と。ま。の。り
 ければ。まも。せ。よ。が。父。よ。何。つ。た。ふ。と。お。い。て。よ。く。つ。か。り
 けり。と。お。い。ん。

●下総国水馬郡岡村の林彦。和田村の中右衛門。菅彦。
 三右衛門など。おほく孝貞の友。つ。ま。り。て。荒。廢。田。を

町九反をかり。と。甲。た。けり。その。廢。田。に。荒。田。桑。田。を。ど。つ。ふ
 名あり。荒田といく。や。た。田。にて。水。を。あ。ふ。れ。稻。苗。あ。れ
 たり。腐れ。た。も。と。つ。ふ。桑。田。と。土。質。よ。ろ。く。か。び。水
 も。く。ら。ぬ。と。い。ふ。と。お。い。ん。それ。里。の。依。彦。七。郎。彦。伊。五
 郎。つ。ま。右。彦。角。右。衛。門。菅。右。衛。門。文。右。衛。門。竹。右。衛。門。七。右。衛。門。
 五。右。衛。門。利。右。衛。門。三。右。衛。門。久。右。衛。門。信。彦。彦。彦。菅。右。衛。門。と。い。ふ。
 とも。廢。田。お。た。り。け。り。と。林。彦。中。右。衛。門。菅。彦。三。右。衛。門
 小。右。衛。門。田。右。衛。門。と。い。ふ。と。合。せ。て。墾。年。は。今。ハ。良。田。と。な。り。て
 年。ご。と。れ。貢。米。と。い。ふ。と。な。り。た。く。な。れ。り。と。い。ふ。と。

●同国豊田郡吉井村の定彦。八。祖。母。母。妹。と。曰。く。若。に

農業より力とを奪いけり。或時妹眼病を故に。夫を承け
 ば。活摩もふし。何せとをちびた。志我上院村に。菜がた
 ぬ。隷とちりて。それ給令とて。て。活摩をかへけり。こ
 の後。剛目も。金けれ。妹と人。れ。許に。嫁せけり。若
 祖。父。れ。代。り。侍り。たる。借令。九。あ。バ。かり。あ。い。が。た。よ。ん。に
 かり。けれ。バ。け。つ。い。で。よ。返。さ。さ。や。と。て。同。家。よ。九。年。ま。で。つ
 かつ。て。それ。給令。と。行。て。遂。に。借令。と。返。海。一。家。に
 帰。て。毀。れ。たる。所。を。ど。と。も。修。理。し。い。けり。九。年。人。れ。家
 につ。か。へ。一。回。あ。れ。つ。と。あ。は。て。承。て。母。れ。許。と。侍
 こと。忘。さ。し。或。は。重。い。み。ど。う。し。う。承。も。い。く。更。に。け。れ

今。昔。ど。かり。ハ。と。て。折。所。たり。い。か。ん。ま。かり。て。い。も。ね
 ら。れ。ざ。り。けれ。バ。鶉。鳴。れ。ろ。ろ。い。ひ。よ。保。れ。こ。母。と。侍。けり。
 かく。孝。志。深。見。む。く。い。に。や。九。年。れ。る。一。日。も。病。に。所。た。る
 こと。ち。り。と。い。へり。

同。国。後。橋。郡。恩。名。村。に。平。藤。が。娘。と。づ。か。よ。七。歳。を。れ。ど。
 孝。心。い。く。深。い。と。い。へん

同。国。同。郡。横。曾。根。新。田。桶。戸。村。に。こ。み。ま。湯。と。い。ふ。の。あ
 り。豊。田。郡。水。浜。及。れ。谷。令。を。承。て。侍。が。許。に。菜。種。と。賣。け。る
 か。日。何。び。て。菜。種。の。直。卑。く。たり。ぬ。或。日。こ。み。ま。湯。と。い。ふ。菜
 一。片。り。て。承。て。承。ま。侍。よ。い。や。り。菜。種。と。賣。し。時。に。三。價

かりーに。不日に卑價になりたれば。我食れるらるせ
 りとて。かの南條とをへーけく。武を勝ひく。素直に
 ぢとて。早換得ハそれ時運によれることなりとて。
 敢てうけひかゞしてかへーやりぬ。其余年に及て又武
 を勝ぐ件に及て。これを年になて後世は婦も疾く
 井のへばされ、菜種の色價をまげてとりたまひけと
 て。南條三片と出。とづめ一斤なり。かゞも。年に
 利子と積たれば。今ハ三片になり。武を勝よ
 くと。は子。武を勝も。敢てうけひかゞしてかへーけり。三
 又。武を勝の。廉直かればむくのや。今ハ田畑もあふく。災

けて。志かゞへ。農家といぬ。それ。賞田に。初種。米。少許
 と。年々。夢まに。おくりて。いふやう。和の。いけ。の。四
 か。北。ま。ぬ。く。は。今。より。つ。と。め。て。再。け。田。を。買。り。と
 した。ま。く。初。め。が。賞。け。一。時。れ。直。より。減。せ。り。と。も。ゆ
 一。ま。ぬ。く。は。べ。一。つ。と。め。た。ま。く。一。と。い。ふ。み。け。り。と。な
 ん。

④ 同国 親子 伊貝 根れ 長者 とつ。ハ。世。よ。い。ま。く。と。字。せ
 ら。れ。て。い。み。だ。に。荒。と。れ。な。り。それ。の。放。蕩。に。て。喧
 嘩。に。倫。と。ぬ。と。悪。行。た。と。一。ん。か。だ。な。一。朋。友。れ。た。と。并。根
 介。一。て。小。谷。三。志。が。と。へ。み。と。せ。た。と。い。い。と。若。心。よ

功...

六

かりて孝行せしこれ志になれうといへり。

同不版法れきよ女といへる。いみじくも若くして。孝貞
れ志こといへり。

同不今まの儀を仰が娘いねい貞良れ志にて。夫に捨
られたれど再嫁ことなく。父母に孝行とておこしけりといへり。

同不今ま目出な町に次き侍とてありのあり。娘とてついでと
し母をやくせとて去りかば。父にそぐまされてひととなり

ぬりた女十五歳の時より。父次き侍守病とて娘ひり
自守とて。多病おこしてほくれよき心まなすね

いさだて。福療れ費用とせか。さらん志。一
かく貧苦よせまりて年月を過るを。おれ志いん

くる。一。おひ。年暮るよとせん。肝者。か。病家
れ多病なれ。うひひくも。さるに大工に助と

て篤き。れ。の。何り。おれ志。一。く。れ。よ。い。後
らひて。おひ。た。并。業。け。れ。ば。あ。され。よ。おひ。ち。り。て。う

けがひけり。嫁人かく。父子よ。告。志。ひ。ふ。ま。い。と。ま。う。と
ひて。や。が。て。并。た。り。ぬ。に。助。孝。心。あ。つ。て。業。よ。か。と。あ。り

一。け。ま。よ。し。一。は。衣。食。と。て。ま。か。び。た。り。ぬ。に。助。人。の
祥。に。や。と。され。一。日。給。の。六。つ。時。より。暁。の。六。つ。時。まで。あ。こ

たゞは勤ければ。世よに助をいづ。いづれもわがさるゆゑ。
他の工人いりもまゝなりて。雇ひてはる人おぢかりけり。
かゝる篤まれば。助とて年長なりて。おぢかえりも。
里娘が孝ふれ。頼よよれるも。いづ。

●同不今まの山田屋百吉が老母い。いとむねし。老志あり。
人と對張れり。いつも人よ七分の利をと。おぢかえり。
極一女子。それ子の百吉とて。母よ。おぢかえり。
ければ。いづれも善人といふ。まへに。いづれも。
己が喰沙や。いづれも。いづれも。いづれも。
るふ。いづれも。いづれも。いづれも。

●同不是母れ。富田屋町れ。老母い。つづ子治。老母の老志。
おぢかえり。おぢかえり。おぢかえり。おぢかえり。
て。かゝる。おぢかえり。おぢかえり。おぢかえり。
おぢかえり。おぢかえり。おぢかえり。おぢかえり。
く。いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

●同不今まの仙臺屋。老母い。つづ子治。老母の老志。
かゝる。おぢかえり。おぢかえり。おぢかえり。
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。
老母も。老母も。老母も。老母も。
ら。いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

なさん。

●同不小侯村れとみま清。老母よつかして孝んはかり
けり。八本村の惣友清つとつりのげよ一使侍て待けりま。
とみま清もてまをなれて孝おちとごせ一母がえかよと
いへければせんじべちくつかつとんとせ一がそこはあ
と母よまがぐれりやまづとつと同。老母とたかくていなく。
とみま清が孝心とまをていしちるもゆいねど。年々余
かゆまゆとび。他不一あまよ必とる別とつげ。あの一
も他のあまよ止宿とつとく。今年とすめ歳たれど。母れん
にかつとあまあゆのらつとんに悔とまかいを一として。

人をとえびていませと鑿まじりて母れとつ。惣友あつこれと
ゆて泪とちが一。まよちりかては心かたくと感嘆とん。乃
とみま清よむかひて。母事いにかたるとふりて母清よつかく
たもよとつとまよ。まてつとやう。おにふがけはるもあ。一
父母れ清親縁と踏ま。一取も他不よ離てまま。一
清心よめとつとま。とれまもひ一あてなといへり
とまさん。

●同国吉河城下れ横町よ若名屋小ま清とつとまあり。
それ子よまをなと仰とて十四歳のまを何り。まをなと仰孝
志ふかく。あまかりも父母れ命よまかまび。その母清は

して養ふれざる時。あそをあみて井松より松をけり
これよかたき。いふれよまめく。一見事よて人よ称養せ
られけりとあん。

同所横町税商人此飛燕ハ。母と姉とにうかつかて。
孝順の心をつくしけり。姉不孝に。て世をいやくせり
後。人ありて養ふとむかひ。てあなれど。母の所よりと
らんものむくた。らんよ悔るもかひを。てうけひ
かび。さるよ下神国主は。君よ忠孝の志を。ていま
よせと。母のい。めたる女あり。人かた女よ飛燕がうく
と。かたりければ。それ玉孝を感。て。い。て。けん。て。よ。と

こまよ。やがて。妹。して。まぬよ。けり。と。あん。

同所の依申屋小三清と。つみの娘お人むたり。姉ハ廿三
妹ハ十七歳にて。いづれも孝悌の心よかりけり。文化十三
年八月。大西月日あり。が。四里は。が。隔たれ
里の伯母病危。と。つきて。姉妹よりあへび。西風を。一。れ。に
て。母。む。けり。竹本様。た。り。う。て。る。と。さ。だ。雨。風
面。む。く。べ。か。さ。る。た。ら。う。び。つ。お。お。つ。て。廿。町。が。り
阿ゆみけり。さ。ら。う。り。も。後。より。一人。の。男。追。つ。た。て。
か。も。む。つ。か。一。た。日。よ。何。も。あ。り。て。な。り。た。ま。よ。と。二
人。と。ら。く。と。い。け。れ。ば。い。て。そ。れ。志。を。さ。げ。て。我。の。妻

●同前にも又々傷つていふ者人あり。男子二人もたり。兄を源
 吉と申す。弟を徳と申すといふ。妻の世もいやくせ。後徳吉
 はみよといふとむかひ。或時徳吉は眼病とせしむ。て医
 療此例もあつて。と徳吉みよといふ。ちがひた。一七日に
 回り合して。徳吉はいれりけり。それ志る。ありて。たぐ
 ちくといふけり。とちん。二人は子ぶか。父母はよ。つかつて
 孝心をつく。徳母も日か子のてくか。ちくせり。と
 いふ。

●同前此日申す徳吉は妻の孝貞れん。よかくして。
 徳吉はよ。たつと。いれりけり。とちん。

●同前此小西屋平右衛門と申す。其の妻ハ。みよとせ。たぐ
 ちくい。ぬたり。長月。月未。あつて。いれり。けり。ひけり。そ
 れ娘よ。まひ。といふ。あり。あ。と。あ。み。断合。れり。て。徳吉は
 いれり。けれ。と。せ。い。と。ちん。母。れ。あ。い。と。あ。や。ち。げ。母。も。せ
 は。あり。と。ちん。ま。い。と。ちん。や。あ。が。え。けん。い。と。ちん。ま。れ。と。ちん
 心。り。と。ちん。が。り。て。ま。ひ。と。ちん。あ。ち。と。ちん。後。の。よ。と。ちん。父。よ。つ。か。し
 て。孝。と。つ。く。ひ。と。ちん。ま。い。と。ちん。い。れり。けり。ま。ひ。と。ちん。これ。と。ちん
 父。と。れ。は。い。と。ちん。か。た。ま。つ。か。し。ま。い。と。ちん。い。れり。けり。ま。ひ。と。ちん。あ。ち。と。ちん
 ま。い。と。ちん。ま。い。と。ちん。徳。吉。の。は。か。た。ま。つ。か。し。ま。い。と。ちん。い。れり。けり。ま。ひ。と。ちん
 と。ち。と。ちん。か。く。ふ。と。ちん。ま。い。と。ちん。い。れり。けり。ま。ひ。と。ちん。あ。ち。と。ちん。い。れり。けり。ま。ひ。と。ちん

りておただしむるも。いひなきぐさめつ。涙もこれけ
と。母いづれ〜お母がえけん。さぞせがまあ〜
つかへまつ〜んよ。父おれどもふや〜。さての母い
れ〜い〜を〜して。い〜と〜ら〜び〜て。お〜づ〜が〜と〜息
たえけり。ま〜い〜いたうちがをかた〜。と〜く〜れ
ぶ〜も〜い〜て〜後も。さ〜ま〜ぐ〜は〜追福に経営つ〜せり
た〜ん。

●甲斐国こまろく坂崎さかざきに林麓はやし後ごに本村ほんむら。中村なかつむらを後ごに勝かつとて
七十ななじゅう歳の公こう翁おうあり。西国さいこく明礼めいれいせんといひけり。老人らうじんれ長
途とちハ心こころをた〜。唯ただれせばともおの善ぜん行ぎょう何なに〜と〜と家

内うちれまいさめければ。さ〜ら〜この里さとに坂崎さかざきハ二里にり半はん金かねれ
坂さかまで。新糸あらいとをれば人馬ひとま越こえ〜。い〜と〜り〜ハ怪けが我われち〜
るもおたかれ。この坂さかをさ〜つ〜ろ〜ひて。使つかまれ志しの殺ころを
救すけりんとて。遂つひはよろ〜と〜た〜ら〜つ〜ろ〜り〜け〜と〜ぞ。

●同どう水みづ成なり坂崎さかざきに本麓ほんふしに船ふねは村むらといふあり。そこよ本勝ほんかつ
とてい〜る。負おと取と者ものをけり。船ふねはより峰たけまで二里にり餘あまの
殺ころふとと。己おのれが目めをれかせ。おのの命いのちをた〜して三年さんねんれ回まわりつ
くろひをさめ。人馬ひとまれ使つかまやれか〜。む。又また後ごの本村ほんむられ
本勝ほんかつが坂さかをつ〜ろ〜り〜と〜い〜む。合あ合あ寺てら百ひゃく廿じふ二に反へん
出い〜して費用つひえをた〜はけ〜ろ〜と〜た〜ん。

① 駿河国沼津に宿よの。小谷と志が孝貞にまかすびれ
 社中お介かり。その中又六条より十四又年より廿五の男
 女児よ。清水屋源太左衛門。伊勢屋忠三郎。江戸屋光義。松屋
 春吉。元向屋乙次郎。虎屋栄右。沼屋文七。辻屋力藤。坂
 巻屋徳次郎。清水屋も女。沼屋くま女。江戸屋鏡女。江戸屋
 まひ女。新井屋小ト女。和泉屋てら女。坂田竹女。江戸屋しよ
 女。北村屋よ女。戸金屋こん女。茶屋志ん女。隆屋しよ女。
 宗金屋はな女。おどしひぐれて。多きつとめ。善きつとめ。よ
 して。人こきもはくめをらびたけり。またおおれは

に芥澤子種くつとあり。よくそれ子才を教て。忠孝
 貞信のなすとてたさとせし。ゆゑよ。孝志の見軍その門
 子出るものひくちなかさび。すこ元向屋伊右衛門が子政入
 弟ハ。つかは二葉の小児なれど。父母よくとてし。いふと志
 ければ。父よ草履を穿して。おかひる心よ。とて。よとらん
 ぶとらん。すこいひけり。とらん。それお仕宿よハ。祐登ん
 ぶと孝貞忠信のいもがし。お介かりとぞ。

② 下総国猿島郡特宿村に政右衛門が妻ありハ。同郡守子
 村の妻あり。齒十六れ時政右衛門が妻となりて。祖父父母
 母にす。孝れんを。けり。まほをこのみ。放後れし。

カキコ

カキコ

まいおどかるともなげたて。さまよへにいさめけれど。あざ
 かりも志んがさび。父母これとんちがげたて。よよのやう
 子をとらたしんよ。政を傳つが所。ひまう。くたりもこ
 そせめ。今より後。神社仏閣。まうでたしんをり。い必
 子。何しんを。祈りて。いひけるよ。よも涙を流
 一丹誠。まうして。まれば。よと。子。わたん。よと
 祈。積。ひり。それ。うち。か。兒。また。り。に。小。谷。三。志。が。門。に
 入て。放。縦。れ。者。あ。また。善。人。よ。な。れる。と。ま。う。う。や。こ。い
 て。ま。と。も。ひ。め。て。こ。志。が。と。へ。子。よ。せ。と。や。と。お。ひ
 かりぬ。い。る。に。政。を。傳。つ。こ。志。が。と。へ。と。う。け。て。お。孝。れ

ろよんをとよせ。おどかめ。べたよ。二。飛。ま。で。愛。見。けり。
 これより。りて。同。親。半。東。村。の。伊。左。衛。門。が。紹。介。に。て。ま。婦。と
 め。よ。その。門。より。か。と。つ。て。な。り。い。ひ。と。つ。と。め。お。か
 や。け。れ。は。な。と。ま。の。り。善。人。と。ふ。と。一。ひ。り。か。く。て。女。子
 う。み。て。お。お。む。つ。ま。う。く。と。う。え。け。り。と。な。ん。

④ 同国香取郡并る村の熱有傳つが娘。うづかに。六。年。を
 ねど。考。ふ。いと。ほ。かり。く。り。十二。歳。な。る。婦。の。母。は。あ。う。が。い
 ける。と。母。い。う。り。て。う。た。ん。と。ほ。ま。よ。に。げ。ま。い。ひ。て。つ。ま。づ。お
 こ。ろ。び。り。り。妹。を。て。い。や。う。母。は。婦。の。婦。は。種。を。お。と。や。ん。と。の
 心。ほ。う。ね。ど。天。より。い。ま。め。た。ま。し。た。ま。う。べ。い。の。後。の。父。

かたのあや

のり

を改めて母にあらがひたまふ事として、よめけりなど。

●同前十六為れ内れ西代村。並右邊つとて悪業の事を
れとあり。その里れ政右邊つが教よりりて。月より四ロツト暮り
とせりんとせひかり一が。後より順く悪業とせりて。茶
もとせりんとれと心とせり。その父も並右邊つが悪業
とせりせりて。他よりりつりむけりとも。並右邊つが先那とせりて
むろくろ一。深く善業とせりけり。又、よりけりとも。
長と夜とせり。ある備物をせりて。農業とせりて
みけり。それより清くも文とせりて備物をせりて。
たりといひよむとせりつりけり。出里れ後善業つ。せりて備物。

孫助才利平才。長七。長者。やどもことよ備物のりとも
て。善くもせりてけり。又、後善業といひのりて。いへりて
入れよに澄くも女とせりて。とて。あるふとせりて。せ
りといへり。

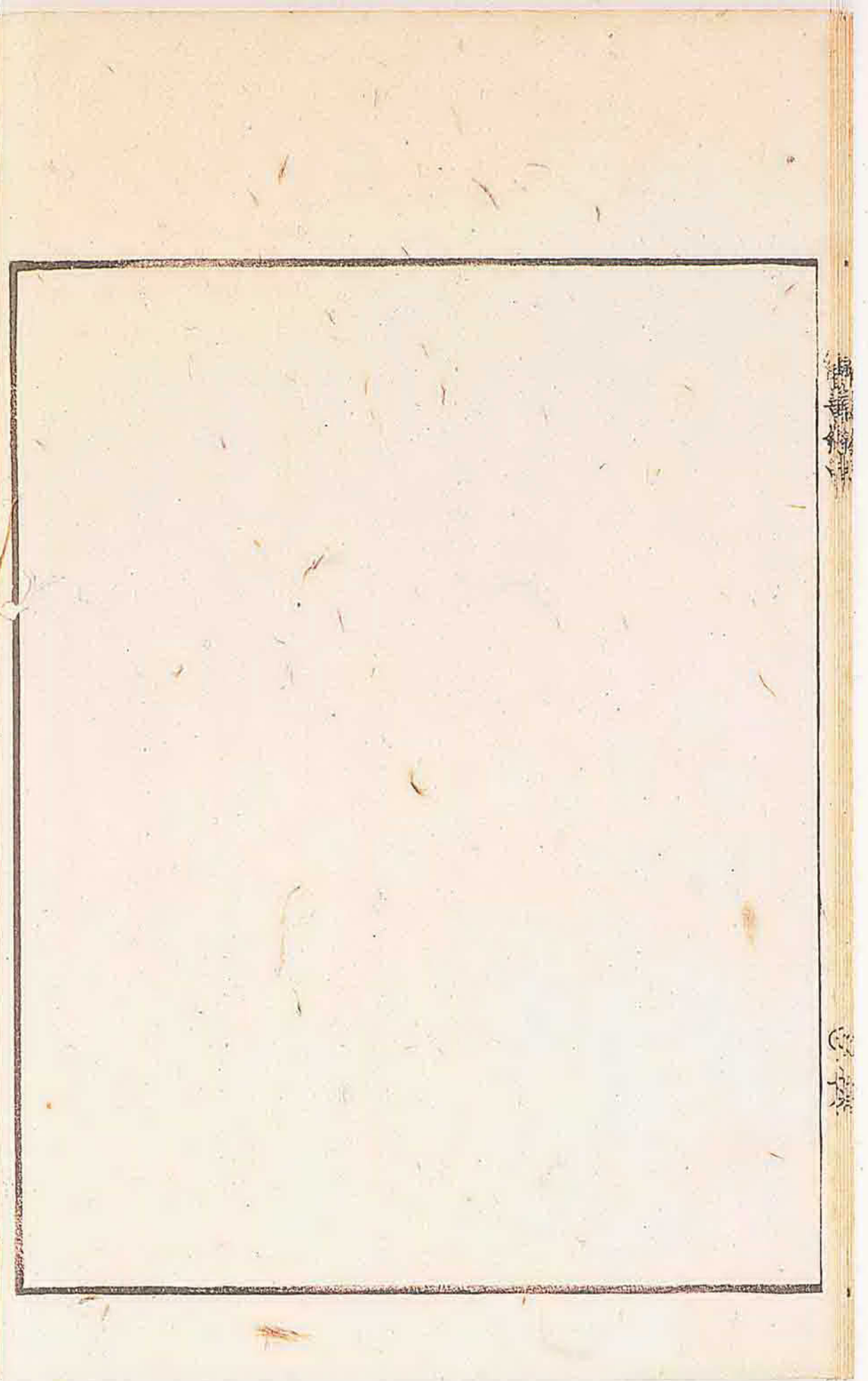
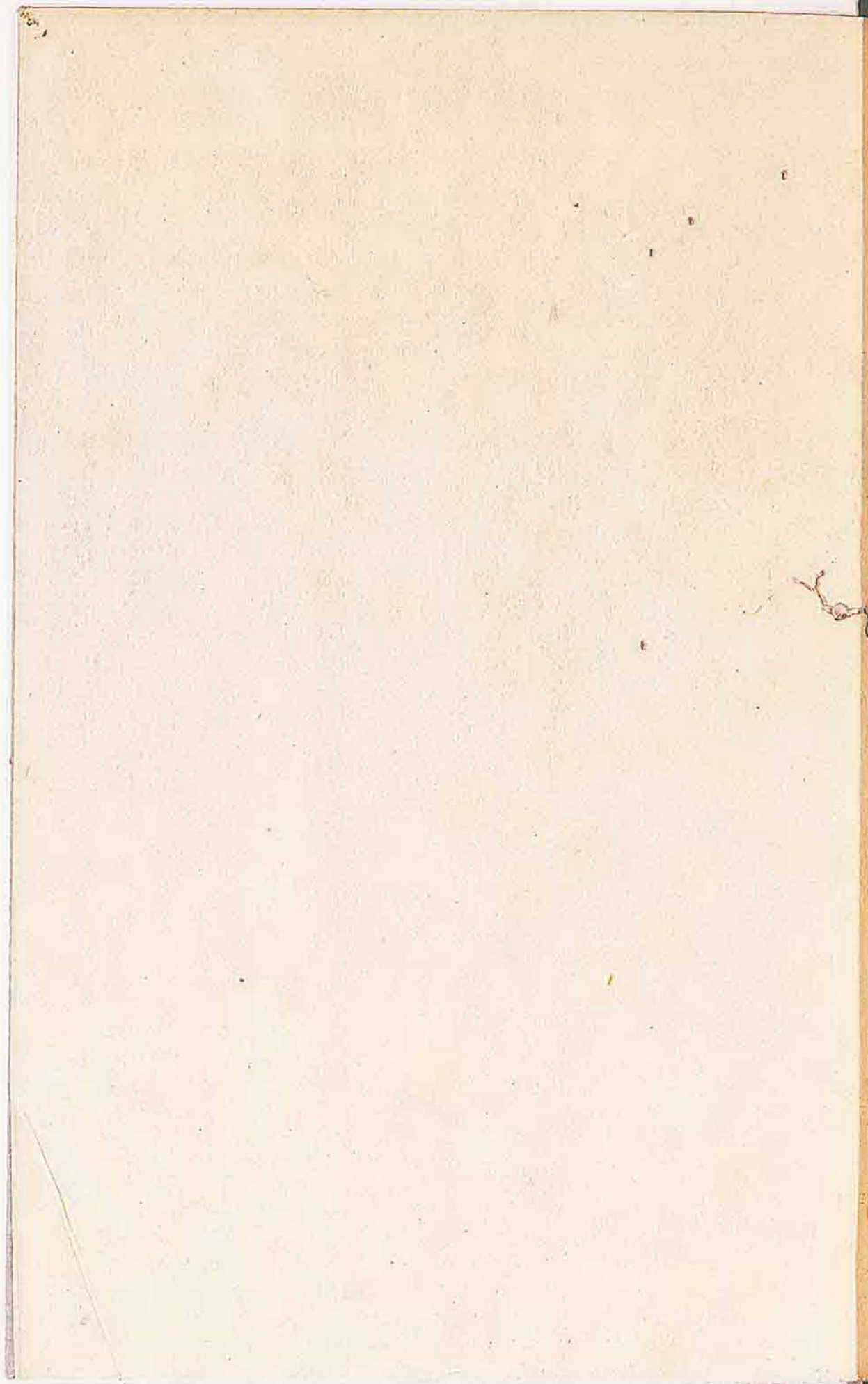
●同前西代村の並右邊つが娘より。治き備が子れ清者とみ
き備が子れ並義。政右邊つが娘の十一歳れらく。九歳れひで。
やどもとせりて。清き備と右邊つ。九歳。仁き備。政き備。おき備。
おき助。お右邊つ。伊助。はよ女。つね女。いと女。とみ女。てい女。とめ女。
とめ女。とつ女。くに女。せん女。すゑ女。げん女。たつ女。きらひつねも
善業けりといへり。おふやひの法をよとせりて。善く人より

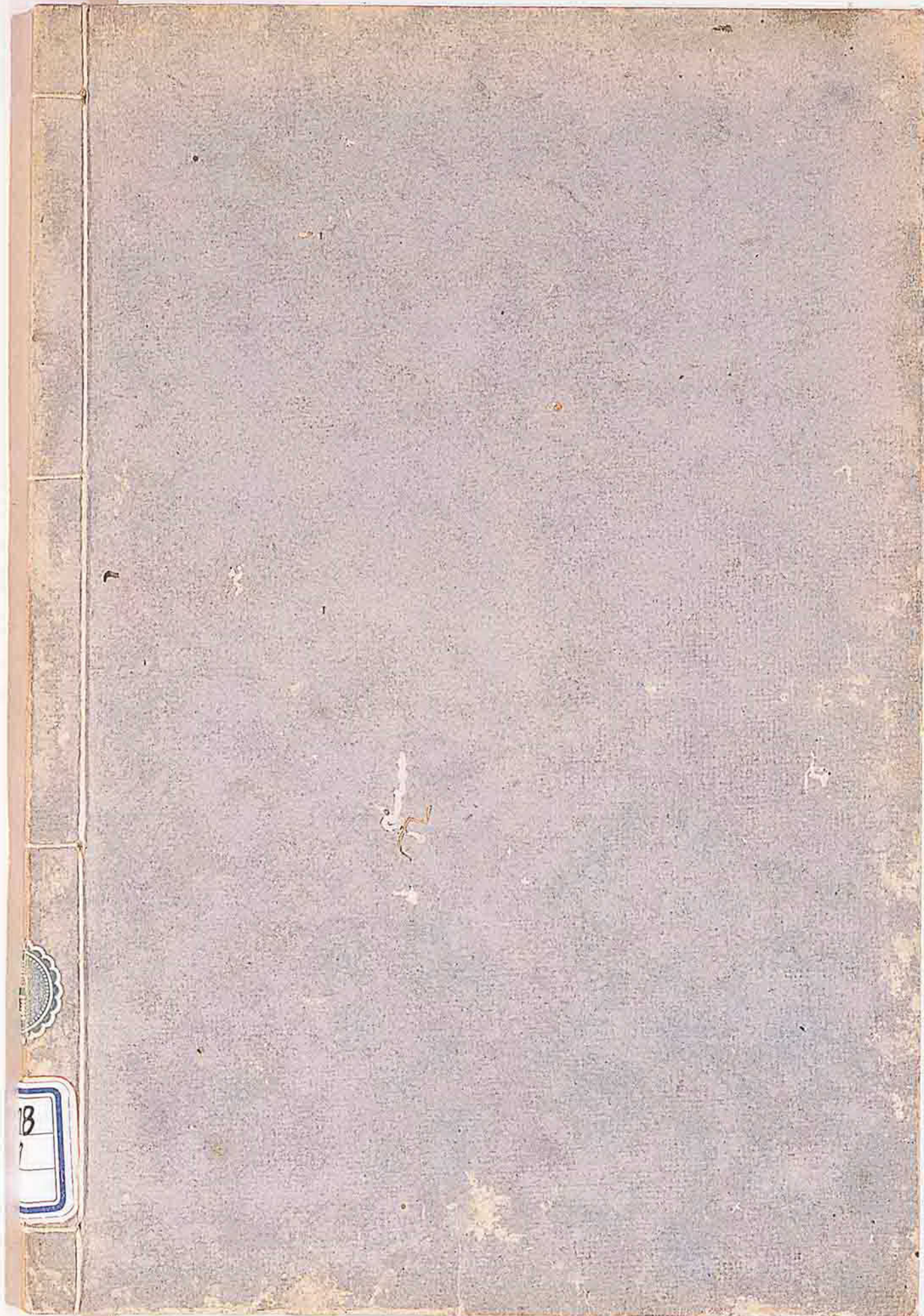
といへり。此西沢村ハ水々よ。あふせぐ堤あり。それ堤ハ
 名ササぬるそこをせられたり。文化十二年ハ太平二百
 年ハ沙塵ごせんはむくいまらんためとて。男サハ人女ハ人として
 築つとぬ。けり。村長むらびとこれを業いざしして林こ海うみ代しろ令さしる。さぬけ
 り。やがてそれ令さしして竹本たけもとと業いざしとれへ。并な津つれ橋はしれこ
 ねれ。とつくりひとをさめ。又村内むらうちに辻つ杭かまてつ徳とく母もの人
 此こ便べんよ。さなへけり。とせん。

●同不どうふれ并な考かうれ者ものを并な。妻つまれがんと。もた孝貞たかさだれ志こころ深ふかく。
 共ともに養母やしほよす。つうして。あやけのほがとさる。善人ぜんじんな
 りといへり。

●同部どうぶ押おし砂すな村むられ七しち并な右みぎ傳でんつが下した男おとこよ侍さむらい義ぎとりのありた
 心こころくよとて。若わかれるよ農いんのり。とびとけり。又田でんれあり
 せむひる。とつり。され人の差別さべつあり。あれゆれめぐら。やうに
 ふ用もちて。村内むらうちとて。孝貞たかさだとて。ねがう。或ある人ひと
 これをこゝろあて。他人たにんの田でんれ。あまに心こころく。さうひ。さる。この男おとこ
 かた。とて。ひひれども。は。養母やしほ耳みみも。ひいれび。これハ。これ。田でん
 母はは。養母やしほとて。いよ。志こころを。改かへめ。び。とせん。

●同村どうむられ折おを。海うみ熱あつた。子これ。妻つまと。今いま并な次つぎ村むらより。びむか。い
 せぬ。名なと。い。女むすめといへり。孝貞たかさだれ心こころう。く。父母ふぼまよ。く





B
7

勤學書錄

下

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5





2769

勸善録卷之下

目録

- ① 下弦国香取郡津崎里の子孫まぬがら
- ② 同郡依原里に本をまづかぬやしが事
- ③ 同郡大崎村の赤まづかぬがら
- ④ 同郡依原里の縫宿を政大崎の並妻の子が事
- ⑤ 同郡押砂村の七郎右衛門が妻をん女が孝貞の
状がら
- ⑥ 同郡小見川村にまづかぬがまづがら
- ⑦ 同郡大崎村の赤まづかぬがら

八 下波国守於之依柳系村の武太徳つがら

九 同村の吉部次が事

十 同国守於宮城下押切町れ宮守屋守を徳が
妻くくがら

十一 同不秩炮町れ下波守を依が後並同国麻江
れ里人平義がら

十二 同国守於之曲原町の要助がら

十三 同国麻江れ里の儀をよ四部が娘はまがら

十四 同国河内郡江曾村れ吉太徳つが娘れゆ
が事

十五 同郡彦彩田村れ吉太徳つが子然之部がら

十六 同郡小林村のよかき徳つ娘わんがら

十七 同国守於之押切町会田屋勇太徳つまゆのら

十八 同国守於之依柳河守れ同屋平太徳つが後
妻れら

十九 同依柳系村の祐次が事

二十 同国守於之南新町れ後七が忠子介之助
が事

二十一 同不丈町れ合之義が娘つがら

二十二 同国守内村の忠之部がら

- ① 同村れ名に栄次井が娘をかかす
- ② 同国堀米村れ捨て置かる
- ③ 同国河原谷村の徳左衛門が
- ④ 同村れ谷屋を築きまぬが
- ⑤ 同国上戸上村れ善右の志れ事
- ⑥ 同国宇都文の岡本宇を勝又子が事

勸善録卷之下

東都

知非齋源與清文儒著

門人

赤松知則

関 常政 校

① 下総国香取郡神傍れ里の養老が子に子孫をたもたす。父ハ八十九歳の老まにて。十七八年世をたもたす。かもち一ほとぬてたうべけを。子孫一日もたたり。ちく一をどけしめけり。母ハ十一年およ中風とどづ。て身より一が。それ者病いとく一けり。子孫をたもたす。れハ五人れ雇人とらり。兼ハ家業一して父を

一 ちひいけり。かゝる孝子なれど、いつたなるむくのや、孝に戸
 にはるも、おれを令と引負ひきおこし。見子養つくのひかへひべた
 とつたりぬ。されど、孝人れ子養いにはも御ごおたすま。村
 内みまれ、商人持屋もちや、日産いちざん、徳のあが、忘たりければ、それ一々
 さまぬ、おれ、評はうの引負、令新貴しんき、おとつ、れ、ひけり。子養、齡
 四十、四、年、よ、及、す、で、妻、も、あ、ら、で、父、は、孝、者、一、け、る、と、を、父
 いたく、お、げ、な、り、い、う、で、妻、を、お、む、う、つ、と、け、り、け、れ、ば、そ、れ、ん
 と、お、む、た、る、く。お、お、村、の、源、三、郎、が、女、だ、ん、と、い、へ、る、と、を、め、
 見、ひ、り、だ、ん、も、孝、心、す、た、女、と、す。ま、ぬ、ま、に、老、父、と、や、
 ち、ひ、い、け、り、と、な、ん。

二 同郡佐原、れ、里、の、お、本、重、三、郎、が、娘、や、い、い、孝、貞、ふ、く、く、
 て、孫、養、ひ、べ、た、う、す、ま、ひ、い、い、お、や、い、い。春、母、を、養、は、病、に、お、
 て、九、月、の、間、ま、づ、ひ、む、づ、か、り、け、る、よ、ま、あ、く、く、く、看、病、や、
 と、ま、お、父、れ、を、ま、い、海、と、な、が、一、と、う、ろ、ま、び、ひ、り、と、い、
 へ、り。

三 同郡大崎村の、お、お、源、三、郎、ま、ぬ、れ、の、い、だ、く、ひ、お、れ、若、人
 よ、て、お、お、業、を、お、お、げ、い、い、人、の、お、お、よ、お、お、つ、く、ひ、い、い、と、い、い、と、い、い、
 といへり。

四 同郡佐原、下、宿、源、三、郎、を、政、右、衛、門、が、子、令、た、い、ま、づ、か、よ、九、歳
 れ、お、お、な、れ、ど、父、母、の、お、お、お、お、お、お、て、孝、志、い、い、お、お、い、い。父、政

いへせび不便なるべしものふしうひごまへまをき居
申田れ縮着大の孫子立致れとありて。一七日の合せり。
りんねのやうかくまれの合一もあも取れるよ。初まあり。
こゆるをいふぐはぐはにあらびとて。家業をいそいそいみかろ
とらに合して。まよかよとさうけりてあらん。

◎同歌大崎村れなき湯まゆの者い。たぐひかを若人にて。
家業をとげも。人れたやよかをつくひとをいひい。ま
ぬもれ一月は四日づい人よもとを成るひ日とて。病家
ちごの農するわくれだるものを賜ひり。まこ唯礼致を
合ちごよおやごこして。無想れふいとほしとあらん。

◎下申国守於おまぬ折原村の武吉居つハ心廉直にして。
孝行信義の人なり。老よ乃路は落たる名塊。本れと一な
どれ。悪て人馬れまそこなふべしおとを捨。又ハ捨れ毀れ
やるとを捨て。いうよいそがとて。これとえさひ
とて。又田よあまを引まかひるよ。家人の若別がく。
わが苗れたらよれとて。村中悪作れを他とね
がへり。事首ハ年々に初種まをりてあり。とて。やまひ。
友にまじしに。に。それとて。めまをむかへが。
故より一年ごかりとて。それ後のまを居つとて。バ
せけり。茶葉も貞操とまのりて。遂は他まに従つて

して。やめぬてこりけり。或は母の父母にせやくおくれ
たれば。せめてかれ父の爺あは。姫とをだまや。しむひまぬ
せん。とて。くしそその志と告げよ。姫とて。義とをむけり
とて。まうこび。されど。或は母の父とて。母れごとく
孝をせり。とて。おん。

⑩ 同从柳原村れ七爺の。おれり。画し。て。人をめぐるむ
ふ。海に老人。村の農する。おくれ。た。る。の。何れ。の。自己。れ
業と。捨。て。て。助。る。こと。老。を。多。く。志。の。木。穀。と。貸。て。これ。を
二。三。の。ひ。と。た。り。お。内。れ。え。十。人。あり。こ。し。ぐ。く。お。ま。に
似。たる。若。ん。七。爺。八。十。四。歳。に。お。よ。ぶ。ど。も。お。健。く。て。

いま。ぐ。災。難。の。お。こ。る。ハ。積。善。れ。報。ち。る。べ。い。

⑪ 同国守於宮城下れ押切町の。高屋。半。ま。法。が。妻。を。と。り
女。と。し。孝。の。貞。良。の。心。の。源。かり。けり。婚。一。人。あり。名。と。よ
ぬ。女。と。い。へ。り。ま。行。あ。り。く。し。て。年。こ。に。借。銀。つ。り。父。母。妻
子。と。と。と。ご。む。び。を。た。御。を。け。れ。ハ。遂。に。男。を。放。ち。て。行。方
志。し。び。ち。り。に。けり。妻。れ。く。女。に。へ。た。か。く。なく。隣。お。け。り
だ。お。れ。り。お。い。さ。ら。と。男。の。志。と。と。と。と。つ。と。あ。て。父。母
婚。し。と。と。告。げ。り。十。年。れ。若。よ。父。母。も。母。ま。かり。け。る。に。それ。看
病。と。と。と。め。て。卒。老。と。と。つ。ひ。何。り。さ。は。ぬ。こ。も。に。も。い。ひ。つ
く。か。た。し。を。敷。れ。人。い。と。心。く。し。く。お。ま。ひ。け。れ。ハ。後。れ

夫をむかへしむれど。さらけうけひくことなし。さる
 べくに夫を流人れぬとありて江戸に候す。不れに
 出でて消息しけり。夫も妻が貞義を義れ始末を以
 て涙を流しあやまちを悔て。是より心を改て君に
 つかへ。是れにお許れ令字を。妻れ許へ申けり。けり。
 さして十年経て後。人ありて半を流が借限せしむる
 けり。あぢげたて。半を流をたぬは悔しむ。半を流よかく
 妻に恩を謝して。むつすくして候ひるやどにやうく
 家業もゆい。かよ候りころちい。火災にかりて。抱
 ひらだす。跡らび焼きけり。されどこれ積悪れむら

なりりと悟て。更になげたかな。申す。いよくらさと
 けみて業をつとめし。今ハ是のあことちくてあんな候
 ける。かく妻れ孝貞のふより。夫も誂て善心かへら
 めたるハ。いよたふとたふとていかりか。

同前此殊炮町の名をハ。親翁をぬて号を下村庵と名
 といへり。七十におよぶるを母よつかつて孝れ心深し。終に
 月をみてハ。子里れかまで照し。よひとあを。あめを
 みてハ。孝れ瑞し。いよら。花をみてハ。美けりの
 志し。いよめ。あぢかりもつたづ。れ風流に。あひ
 せび。その心あし。人れ若むを責し。忠孝貞信れ

お徳ととたさして。かりそめにも悪くゆきかたまることなし。
一と世に本領のそれ家と付て。おなれまのうへせひ
ひらきなり。宇都宮の城の悪き一たまひ。おめぐまを
たまひけ。ことたご。あましくかたり出ける中に。同玉麻呂
れ里人志を傳が子平義とのあり。知より孝れ心ふく。
つづかの集物齋して父母を養けり。父酒を好ければ。おれ
男を納て日に酒法てひきめたり。ひびて父れ命をう
けざれば。ゆきおこなり。かくまめれ男をれば。あも
まもえまねび。おれごごりて。若人。平義年廿九れと見。
父七十にて。男まかりぬ。平義いたくちがれた。日に暮れま

して一日も怠ることなし。父死て後、何れも母れ命を
おりて。ごが心づいて。おれごごりて。かく孝の人とな
れ。おれものむくいよや。田畑もおれ借れ。多大人たり。が。
やうくは孝福をばて。言ふおれといたりぬ。さて母は孝を
つとむも。父いよ。一時は。おれごごりて。ゆりたりけ
れ。おれは父れおれごごり。かたり出て。なげたたり。母も
年八十一して。男まかりぬ。おれごごりて。後。おれご
におれごごり。一日も暮れま。おれごごり。母死て後。二所の
墓は。おれごごり。毎日れつとせせり。平義人。おれごごり
り。おれごごり。おれごごり。おれごごり。おれごごり。おれごごり

かきとて

ト

を肩^{かみ}て活^いけり。同^{どう}り人^{ひと}これを辞^{こと}儀^ぎにれども不可^{たふ}
して一人をぬき置^おけり。二人をぬき置^おけり。心^{こころ}ざくにきこ。
心^{こころ}ざくにきこ。

● 母^{はは}一人れもの^{もの}がたり。宇^う於^お之^の曲^{まが}所^{ところ}町^{まち}れ派^は治^ち伊^い集^じ
がまこと要^{よう}助^{じゆ}といひ。母^{はは}いよやく世^よをさぬ。父^{ちち}伊^い集^じ十^{じゆ}
にあり。志^しあふ^あけ^けて身^み体^{たい}自^じ由^{ゆう}なる^{なる}び。それ一人に老^{おい}
かけてまよ^{まよ}ぐの^のくねりごとを^をぞい^いごと。要^{よう}助^{じゆ}はく^く
もそれ心^{こころ}はたぐさ^さび。を^をれ^れ志^しあ^あふ^ふの^の添^そぶ^ぶして^{して}層^{そう}と
あだ^あめ^めせ^せ。五^ごれ^れあ^あつ^つた^た日^ひの^の願^{ねが}を^をも^もた^たる^るび^びして^{して}ひ

一^いか^かし^しむ^む。家^{いへ}いと^と多^{おほ}く^くて。ち^ちり^りの^の心^{こころ}は^はま^まさ^さと^とね^ねど。
父^{ちち}が^が目^めを^をし^した^たら^らの^のか^かた^たく^くさ^さら^らび^びも^もう^うか^かな^な眠^{ねむ}れ
る^るや^やと^とあ^あら^らう^うか^かして^{して}派^は治^ちの^のま^まを^をし^して^{して}い^いと^とあ^あら^らう^う
そ^そく^くて^て何^{なに}げ^げり^り。か^かく^くあ^あら^らし^した^た一^いた^ため^めと^とも^も。更^{さら}に^にあ^あら^らう^う
い^いと^とあ^あら^らう^う孝^これ^れ心^{こころ}は^はか^から^らい^いや^やめ^めと^とも^もに^にあ^あら^らう^う。

● 同^{どう}人^{ひと}れ^れ後^ごは^は同^{どう}国^{くに}麻^ま呂^ろれ^れ里^りの^の後^ごに^にあ^あら^らう^う。四^し弟^{てい}が^が娘^{むすめ}は^は
ま^ま女^{むすめ}とい^いふ^ふ。初^{はつ}と^とて^て母^{はは}を^をお^おくれ^れ。祖^そ母^ぼよ^よや^やと^とあ^あら^らう^う
て^てい^いと^とあ^あら^らう^うぬ^ぬ。父^{ちち}の^の業^{わざ}に^にい^いと^とあ^あら^らう^うて^てあ^あら^らう^うに^にあ^あら^らう^う。
ま^ま老^{おい}は^は祖^そ母^ぼの^の側^{わき}に^にあ^あら^らう^うて^てつ^つか^かへ^へり^り。父^{ちち}後^ごより^{より}あ^あら^らう^う
と^とあ^あら^らう^う。ひ^ひま^まが^が紅^{べに}粉^{こな}料^{りょう}れ^れ粉^{こな}を^をた^たぶ^ぶす^す。ひ^ひま^まこ^これ^れを^をあ^あれ

用にてびくして。祖母れ口よかきし物をも愛てびくめ。祖母
 か何れよりすしとて喰やと。いと嬉したるり。子えよろこ
 びけり。年十六七にもなりしころ。より死をれころが
 けしうきさも。かつりえだよびて身をもいし。い
 さ。かもせれそしりにあふことなり。食物も飯と汁れ
 およみぐりれ物もそへびしてさひきり。祖母といふと
 にハけは実をさまねと。自己いつゆれとを泣けり。祖母
 事老ておたふし。自身さび二便もさびくして。我
 ハ六七なりあまりて起出ると。よく介抱し。我もい
 か。目もあやねど。重も飛眠せび。よく紡績のさしや

つとあけり。さ敷の人にはまがきと食とにれれん。来うま
 いねせのどい重ねむたをる。わらさぬを感ぜし。ハナ
 祖母いぬいし。かひて長がみ。いし。不自覺なり
 一か。よし。介抱してふと。九十九歳にて世を
 終るまで。一日も怠かす。孝書し。け。ハ。い。た。と。死
 ころ。い。ち。り。や。

④ 同人の後。同国河内郡に曾嶋村の者た。つが娘
 さ。い。し。い。り。それおに。希た。あ。つ。と。い。あ。れ。ど。
 齡。い。れ。た。れ。バ。父の。嗣。い。か。ん。て。い。し。女が年
 廿一。時。婚。と。り。て。お。あ。つ。つ。が。い。ひ。る。が。あ。あ。り。て。卒

ごとく離縁一けり。ゆゑふれおのやう。お家へ一けれ
 ば再むこと一人とたよりよかぬ。初に言とおか
 一きて。おさつがーのいふがーとて。寡婦として何く
 られ一おんせしめ。お母を養ひけり。かゝいなく母も
 まかり一かむ後のまをもむしと。くひきめけれど。
 貞信れ志とあつて志たがをび。まハ父とともて農共業
 といそ一み。東ハ流流れとておたさびして。父祖の
 世よりおけくたる田畠をいかにうら一とておんく。
 才とねか一三たり。おやうくひととちり一とる
 ちいよ及でハ。おおいおころ一たれど。おももれお正
 一して農するつとあければ。大よよろこび。おの
 れハおれとていふと。おハ男共業とてあつて。
 父とあ一あひけり。父ハおいがけてた。飲合れとて
 一みと一ければ。おれはおとあとおもひ。おとあ
 夕れおと。おとあとして父が食物も心よまうせぬ。お
 抱一とておとあハ。おとあもいふと。一里おれとて
 孫て。おとあおれ町よあて。おとあのとていへりけり
 ちん。

同人は後日同形を新田村に春を病むが子とて能
 ぶ病といへり。業スツたりけり。おとあまかり一せば。

それ母然之病をとりて日が実父れやびまかへり。ふたたび
 同郡鷲田村の長十郎が妻をとり。然之病をもちつれ
 るもて妻をけり。さて二十四年経過後。長十郎目しめて
 農業者と勤ること何ひび。母も病がうなれ。日づかに
 十歳むかりれ然之病を農にすもつとむるがみよて。
 いとあつしめて後けり。されど然之病孝のふゆく。目
 勝れ妻を父よりつかり。兼他業にある時。父れとび
 一かさんゆをわひやりて。卒てりてそれ心を
 めぐる。母ハ心ぞまほしく。長十郎が目盲たれとやへり
 ひて。日か父れをよのうぬ。然之病はもとむるが父とて

捨てられに従へしゆめけれど。たゞ人実母れ心よりゆくと
 も目盲たる其父とをえ捨んことかこせしむるがて。後
 其父よつかりてとゞくみくら。村を母う後。其父をとり
 くみて。それよりとてかへさんと後まければ然之病
 大に悪まれけり。母を働く其父のやめかへしめ。
 とのよ其父をやらぬいっつ。なむいそめして後けりと
 せん。

同人れ後。同郡小林村れか妻が娘よかん女とあり。
 侍を娶つといふを嫁よとりて。いさるれ娘とらうり。その後
 父れか妻も。まのはを病つとも思ふよりぬ。おといまぐり

勅書録下

とげまをされて。といれ起れ勇在候つといされたることぞ。

●同国守於ま原柳河原の同屋平太尉つが妻。産後より
まかり一後。小児をば人れ許しやりて妻をせけり。さて後妻
とむせり。たやどなくも。みり子うみけり。後妻まは後
て。日かける子も人よや。まよりせ。と妻れ子をもあよむり
して。家乳して。もぐみあや一けり。とまん。

●同原柳原村の祐三といへり。祖父父子こまぬ持たる意
孝の家ちり。平孝の正一。母やけれあやて。とまん。
人よき。とるに信義ありて。めぐみあやれむ。心よかりとい
へり。

●同国守於ま南形町れ。友七が妻。子に外に助とて。十
歳れ。孝あり。は左隣町れ。はま清がひめにて。小谷之
が孝。孝とま。孝行。孝二にして。家業とま。げ
けり。ま。同志。社中。人許つ。とて。孝に孝行れ
た。のめ。あや。か。い。は。つ。と。まん。

●同不丈町れ。合義とて。酒屋の政司とて。業とま。の
けり。娘。い。つ。女。と。て。十。四。歳。か。り。け。る。が。孝。志。い。と。あ。り
。父母の申らひ。と。あ。り。く。だ。ふ。の。な。ど。あ。り。か。ど。
つ。と。い。は。し。め。て。今。い。親。子。む。つ。ま。い。く。て。さ。か
え。け。り。と。まん。

●月国が於まを迎れ寺内村に惣を弟として、と著
 ちありけり。と歌上篠村の秀翁とらふ齒サ二葉の
 若志こころのなくば徳の收うまれ質なりけるが。何れよふいたり
 つりりや。物もの相あひまとたりて我がと一見ひとみもまひあま
 たむびこかくていいうちなる様さままごといいでんもさり
 里がたしとて。親族しんぞくをかりて一同いっしょなる所にこゝ翁おきなと
 とと及およよおよべり。されど本心ほんしんよかへるべしとまは
 ねど。永く許ゆるしおひましくせよ。寺内村の翁おきなと
 弟と。これ惣を弟ていいとあされよおひいかにして
 恥はにかむやとて。かれ親族しんぞくよさかり。秀翁と惣を弟ていと家

にむかへとらぬ。さやお内れありありともいふとつ
 て介抱かいぼうし。神仏しんぶつも祈いのて療治りょうぢしけるよ。その志こころも一
 て秀翁が親おや礼れい年ねん愈ゆしけりとせん。

●周村れ翁おきなも弟ていが始はじちうい。まづかな十葉じふはをれ
 ど。いと孝心こころふうくして。父母ふぼよよくつく。母ははの養やしなや一
 れらるしみをわひやりて。それ恩おんの厚うすたことをい
 かへみけり。又翁おきなはあをあこむを淨きよめて。父母
 けさのえを神かみ仏ぶつよいれけりせん。

●周国が於まを迎れむかへて。翁おきなが子こ捨すて必かなハ。
 齒は十葉じふはにて志こころが孝うやまの門かど人ひととなり。師し親しんとた

かみ

〇三

とい。孝義世々二代志を承りといふ。

●同国宇都宮郡佐野村に原谷村よはる湯つとりのあり。それ心ざまよろしくて。村内四方を田の水けけり。引く。こもとおれれがつとめと。家人は差別なく。ちよも用けりともなし。

●おちが里れ日だりに谷屋を産物といふものあり。まゆとりに着人けりけり。それ煮牛馬れ炎暑よろ。しむとこんあつれきて。羊洗しあま。人れぬのそん。あつり。火谷よまかして。糖をとわねませむ。門さ牛馬にあだくのませけりともなし。

●同国宇都宮郡上戸上村れ産物志を承り志を承り産物源は新むじり。孝貞れ志百余人が中に秀てり。父母の命にまむかりもりとれることな。子よ外一實に起て。国恩にむくいな。んがためにとて。農業をいそしみけり。又休日あれば田畑まのりて。むかよと。おちいたとを標せい。後来れ人れ踐ざらんやうにふと用けりともなし。

●同国宇都宮郡岡本宇都宮郡といふ。日田の志といふが後。同所の産物志を承り。志が教をうけて。志考れ及のまにふと。へん。

とせり。字之傍が子れ令五も孝心こころふかたりのちりといへり。

勸善録卷之下終

松屋高田大人著書目録

擁書漫筆

五冊刊行

賀茂真淵翁家傳

一冊刊行

俳諧歌論

二冊刊行

棟梁集

和文集

一冊刊行

竺志舟物語旁注

二冊刊行

国鎮記

諸国富士

一冊刊行

十六夜日記残月抄

五冊近刻

隅田川御覽記

一卷写本

相馬日記

四冊刊行

積徳叢談

一冊刊行

樂章類語抄

五冊刊行

歌躰辨

一冊近刻

東遊神樂
催馬樂風俗

松屋叢話初編

一冊刊行

松屋筆記

五十卷写本

2500

勸善録下

同 二編 一冊 刊行

歌學大成 五十卷 未刻

更級日記抄 三冊 近刻

勸善録 三冊 刊行

宇都物語 一冊 寫本

文政三年四月癸亥

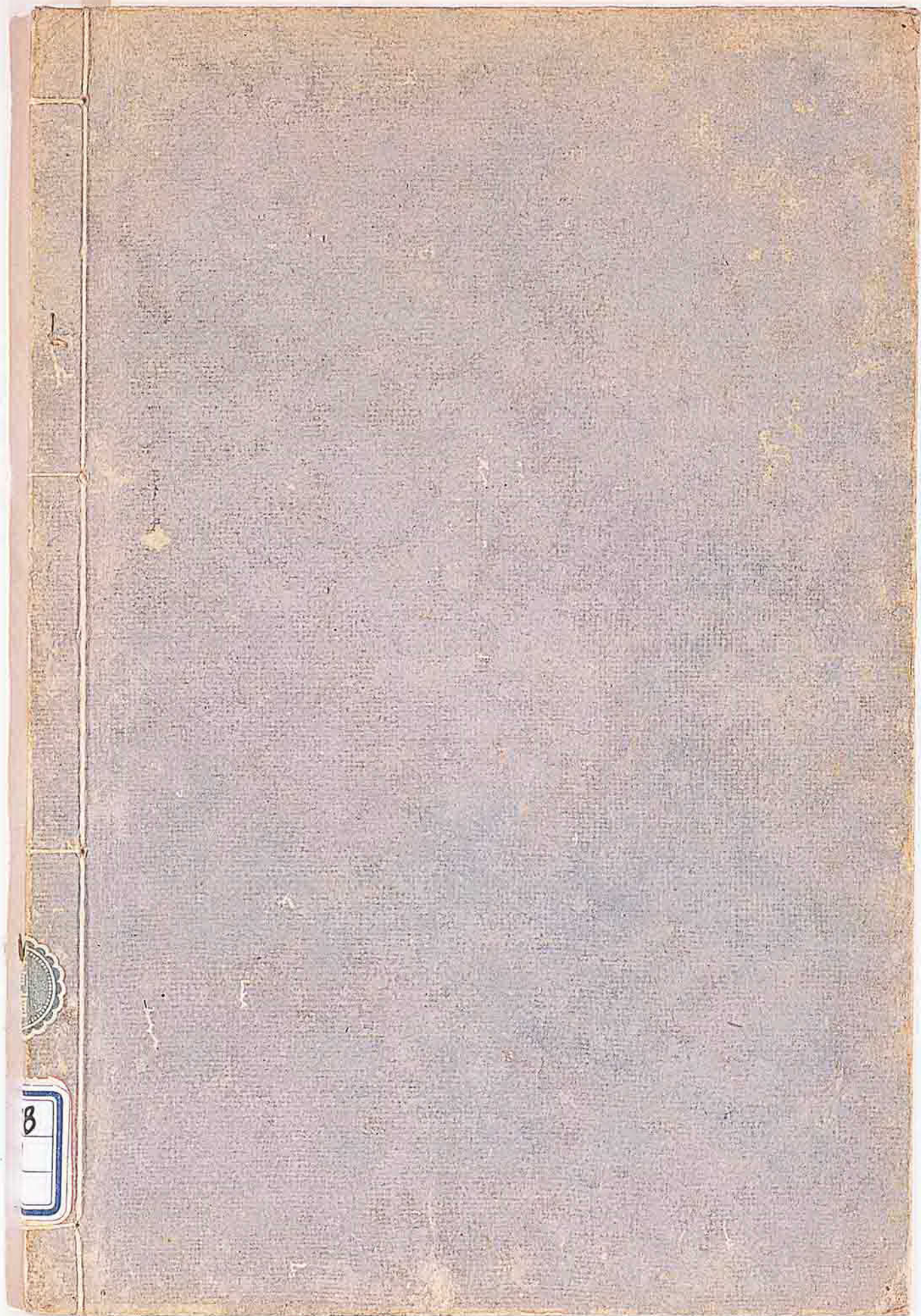
浅草南馬道町

栗村半藏

江戸書林

京橋銀座二丁目

伊勢屋忠右衛門



8